

〈幼稚園教育〉

幼児が友達と共に遊ぶ楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫 ～触れ合い、かかわる集団遊びを通して～

糸満市立糸満南幼稚園教諭 金城 さくら

I テーマ設定の理由

近年、少子化、核家族化、情報化などの社会の変化に伴い、家庭や地域で人とのかかわりの経験が減少し、人間関係や地域における人と人とのつながりが希薄化している。それに伴い幼児の遊びも変化しており、テレビやゲーム等の情報機器に偏った遊びが増加するとともに、子ども同士の群れ遊びが減少し、このことが人とかかわる力の育ちに大きく影響を及ぼしている。集団の中で友達と触れ合いのかかわる経験は人への親しみをもつことができ、同じ場所において、同じ気持ちを味わうといった体験の共有をすることができる。それは友達と心がつながる感覚を味わうこともできる幼児期に必要な経験である。さらに友達と楽しく遊ぶためにはルールが必要であることを理解するようになり、友達とかかわって遊ぶ中で生じるいざこざや葛藤を体験することで、人間関係の調整の仕方を学んでいくのである。

幼稚園教育要領「人間関係」の内容には、「先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。」と示されている。幼児は温かく受け入れてくれる教師との信頼関係に支えられ安定し、次第に周囲の人やものへの関心を広げていく。友達と触れ合い、かかわって遊ぶことは、友達と一緒にいる心地よさや自分も学級の一員なのだという安心感や共に遊ぶ楽しさを生み出し、このような経験を積み重ねていくことは友達とのかかわりを広げ、深めていくことにつながると考える。このことから友達と一緒にいる心地よさや、共に遊ぶ楽しさを味わうために集団遊びは有効な手立てであると考えます。

本園の幼児の姿を見ると、入園当初、気の合う友達と興味を持った遊びを見つけて積極的に遊ぶ子どもがいるが、友達と一緒に遊びたいものの、遊びにどう入っていけばよいかわからず、きっかけを探している子どもも見られる。また、他児の遊びの様子を眺めているだけの子どもや、一人でも遊べるブロックやパズル、折り紙等の遊具や用具を使う遊びに偏りがちな子どもも見られる。このような姿も、自分の居場所を見つけ、安定していくための大切な姿として受け止めながら、次第に友達とのかかわりが生まれるようにしていきたいと考える。

これまでの保育を振り返ってみると、幼児一人一人の行動と内面を理解し、心の動きに添ったかかわり方が十分できていなかったのではないかと、友達同士の触れ合いを楽しめるような場を設けたり、友達と遊ぶことが楽しいと思える援助の工夫が足りなかったのではないかと反省する。幼稚園において、友達と触れ合い、かかわり、心がつながる楽しさを体験することの重要性を踏まえた保育の展開をしていきたいと考える。

幼児が友達と触れ合い、かかわる集団遊びを通して、友達と共に遊ぶ楽しさを味わうための環境構成や援助の工夫を探っていきたいと思い、本テーマを設定した。

II 研究目標

幼児が友達と触れ合い、かかわる集団遊びを通して、友達と遊ぶ楽しさを味わうための環境構成や援助の工夫を探る。

III 研究の方法

- 1 人とのかかわりに関する領域「人間関係」についての理論研究
- 2 幼児が友達と触れ合いのかかわる集団遊びを楽しむことができるような環境構成や援助の工夫